



▲自宅アトリエで作品に向かう寺崎さん。
穏やかな笑顔が一変し、厳しい表情が浮かぶ。
全道展会員。日本版画協会準会員。

版画家

寺崎源治さん(西岡在住)

「版画つて面白んだよ」と笑顔で話す寺崎源治さん(七)は二十代のころから版画を始めました。きつかけは「版画の専門誌を読んでみたら面白そうだったから」と楽しげに当時を振り返ります。

版画にはさまざまな種類があり、寺崎さんの作品は主に腐食銅版画。銅板の表面を腐食させることによって溝を作り、その溝にインクを詰めてプレス機で強い圧力をかけて刷るものです。技法は「エツ

絵は人生観であり恋愛観であり歴史観だと思ふ。宇宙観でもあるしね。どの絵もそれぞれ美しいのはそのせいだと思ふ。絵って自由なんだよ。

チング」といい、銅板の表面に防食剤を塗り、鉄筆などでその防食剤を削り取るように絵を描き、その後、腐食液に浸してその部分を腐食させ線を表現する方法を用いています。また、温めると溶けて付着し防食の働きをする松脂の粉末を版面に散布し、細粒のすき間を腐食させて面を表現する「アクアチント」という技法も組み合わせられています。こうして版画特有の繊細で美しい線を描き出しています。これらの技法を、本や版画仲間からの情報などにより独学で習得した寺崎さん。鉄筆などの道具も、自分の手に合うよう手製のものを使っています。十年ほど前まで親の代から続く表具店を営んでおり、それまで培ってきた職人技が作品を制作する上でも生かされています。

豊平で生まれ育った寺崎さんは、今まで描いた作品のほとんどが、区内の風景を眺めていて浮かんだものといえます。「豊平の自然を眺めているイメージがわいてきます。例えば西岡水源池だとか羊ヶ丘展望台だとか。豊平には美

しいものがいっぱいあります。遠くまで行かなくてもね」と豊平に対する愛着はひとしおです。

また、最近の作品にはあえてタイトルを付けていないといえます。「インスピレーション(ひらめき)でさっと描く。自由な発想だね。特にモチーフはないけれど、ほとんどが水のイメージです」と教えてくれました。作品からは確かに水の表情が感じられます。

版画と豊平をこよなく愛する寺崎さんは「これからもより美しく力強く豊平を描き続けたい」。そう語り、また楽しそうに笑いかけてくれました。



▲最新作



▲2001年作



▲2000年作

色合いや輝きの表現が、見る側にさまざまな想像をさせてくれる作品

